

狭山市議会議長
加賀谷 勉 様

視察議員氏名 高橋ブラクソン久美子

視 察 報 告 書

このことについて、次のとおり報告します。

- 1 期 間 2020年1月15日～ 2020年 1月16日 (1泊 2日)
- 2 視 察 先

佐賀県武雄市、佐賀市

- 3 調 査 事 項

武雄市：武雄市図書館の概要

佐賀市：看護小規模多機能居宅介護事業所 ケアステーション野の花の概要

- 4 調 査 概 要

武雄市

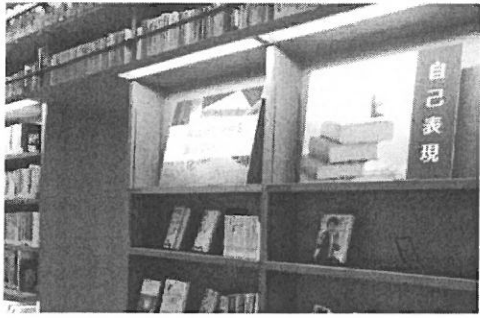
武雄市は平成18年武雄市、山内町、北方町が新設合併し、武雄市が誕生した。広さ194.50km²、人口約5万人の市である。予算規模は242億円。



武雄市図書館：平成12年10月1日に開館。平成25年4月1日より、CCC（カルチャー・コンビニエンス・クラブ）による指定管理者制度により、武雄市図書館を運営している。平成27年武雄市図書館を改修、その際、子ども図書館を開設。

武雄市図書館を建設に20億円、CCCに改修を任せるときに2億円、また平成27年





DNC 分類法のような従来のやり方を止め、蔦屋が採用している 20 分類法を使って本の分類をしている。それだけでなく、左に見られるような今日的なテーマを取り上げての書棚を作ったりしている。いつでも、自分の読みたい本を取り出せる工夫である。本の検索も、ところどころにおいてあるコンピュータ一端末やタブレットを用いれば、どこにこんな本があるか分る。この図書館は書庫を持たず、20 万冊にも上る図書はすべて開架してある。

ちなみに狭山市には書庫があるが、水が染み出てきてカビが生えるのではと心配をしている。図書館のトレンドは、本は見やすいように開架に置くという事である。

【目指す図書館像】「便利」で「役に立つ」図書館

- ・本の借用、読書以外での利用(地域コミュニティー、情報の拠点)
- ・若い女性や図書館に縁遠い人の利用促進(主なターゲット)
- ・利用者目線(市民要望)にこだわったサービス・運営

◆いつでも利用できる図書館
◆居心地のいい図書館 を実現したい

※構想実現のため、行政(武播市)は民間(企業)の力を借りて「新しい図書館づくり」に取り組んだ

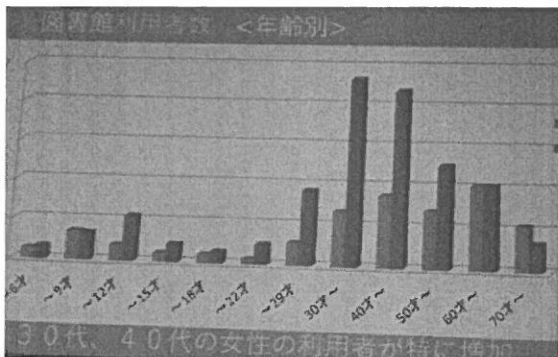
左は CCC に指定管理をして貰う際の市による考え。このため、365 日開館。開館時間は 9 時から 21 時まで。飲み物を飲みながら、読書や談話が楽しめる気軽な場所作り。さまざまな催しによる体験できる図書館づくり。このような取り組みを指定管理者に実現してもらった。

(平成25年度～平成30年度)

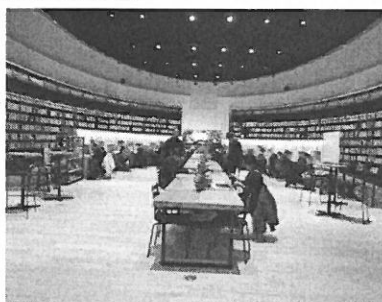
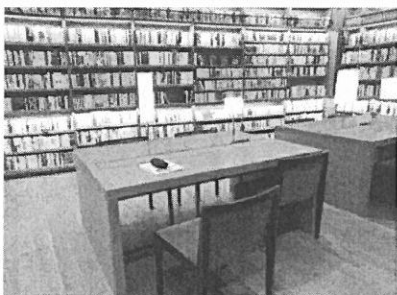
来館者数	823,036人	890,736人	725,242人	688,710人	910,167人	1,073,257人
図書貸出 利用者数	767,889人	460,946人	150,476人	139,814人	137,549人	146,947人
図書 貸出冊数	545,324冊	480,163冊	460,931冊	427,049冊	410,437冊	422,729冊

その結果、以前は年間 20 万人だった来館者は、指定管理者が図書館を運営してから、百万人(平成 30 年) になった。

ゆったりと図書館でくつろいでいてほしいという願いがあるそうで、来館者の図書館にいる時間が伸びたそうだ。「居心地がよい図書館」が実現した。また、定年後の男性市民が新聞を読んで時間を潰しているという一般的なイメージが図書館にあったが、いまや 30、40 代の女性が利用する図書館に変わってきているようだ。



読書室も館内に幾つかあり、静かに読書をすべきところと、多少の談笑は許されるところ



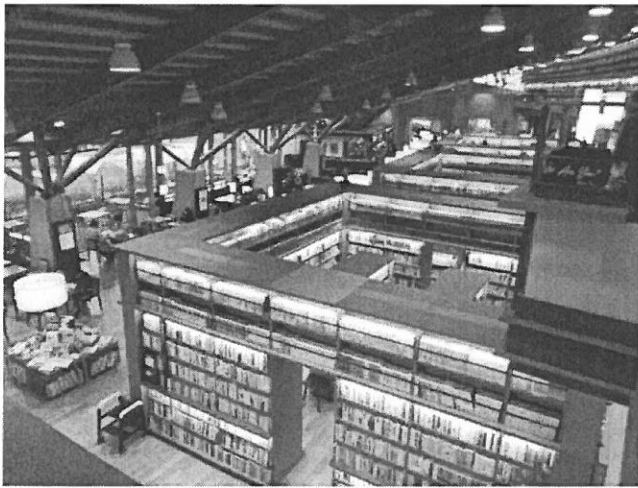
の「シェアルーム」があった。談笑が許されるところ、例えばシェアルームやスターバックスでは静かにジャズが流れていて、ここでは静粛は求められていない。ただ、ど



の部屋でも大声で騒いでいるようなことはなかった。このシェアルームは平成27年に蔦屋のDVDなどのレンタルをしていたところを改修した場所である。ここではイベントを開催したりもしている。それにしても、センスのよい場所である。

2階から下が見える位置に読書コーナーがあるが、どこにもWIFIは飛んでいるし、コンセント(全360席中120席についている)も多くあるので、PCやタブレット、スマートフォンを持ち込め

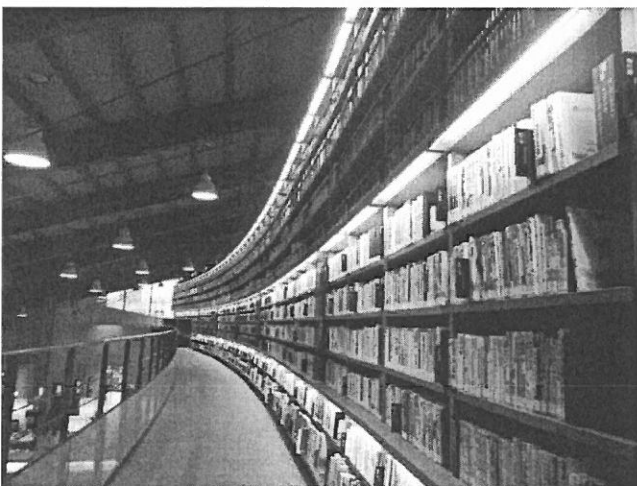
る。また、飲み物を持ち込んだりしてもよい。



左写真は、2階から撮った1階の様子。スターバックスのコーヒーショップが見え、飲み物を飲んでいる人も見える。私もいただいたが、いつもよりコーヒーがおいしくいただけたのは、本に囲まれた洒落た場所だったからかもしれない。

四角の箱のような書棚が3箇所見えているが、この中はそれぞれの分類によって、(料理、旅行、人文等に分けてある)例えば観光に関してとか、スポーツに関してなど探し易く、この四角の空間

を好きだという市民も多いそうだ。

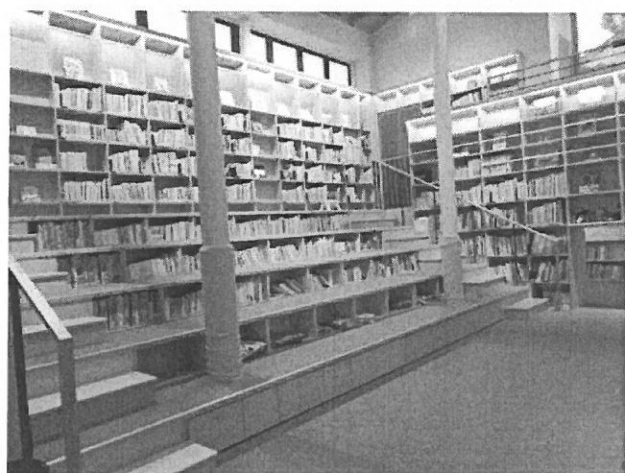


何しろ20万冊もの本を書架に出してあるのだから、書架そのものは高くなる。どうして取るのかと館員に聞いたところ、脚立などで本をとってくれるという。スウェーデンの図書館ではこと同じように高いところまで本が並べられていたが、書架のところどころに移動の出来る梯子のようなものがあった。

CCCによる指定管理制度に関しては、今の図書館長はCCCの職員ではあるが、退職した子ども教育部長の方で、行政とCCCの架け

橋を自認していた。図書館の管理運営費は直轄の時より1000万円ほど少なくなっているとこのこと。また、司書は前に比べて多くなり、本の購入費は年間1500万円ほどらしいが、教育委員会と話し合いをして購入しているのだそうだ。雑誌の購入がないのですべて書籍の購入に当てられるそうだ。365日、長時間(午前9時から午後9時まで)の開館は直営では出来ないので、利用者に喜ばれているとのことだった。

武雄市子ども図書館



.....
武雄市子ども図書館は、武雄市図書館に隣接して、平成29年にオープンした。イベント開催を重視し、イベント開催回数1539回 イベント参加数 30434人となっている。イベントは年代別にさまざま。お話会（幼児向け）は毎日午後開催、赤ちゃんお話会は毎日午前開催、英語でのお話会は毎日曜日に開催される。年代別の司書講座も年間を通して行っていて、本に親しみ、図書館に親しむための体験型講座となっている。

この階段状のところはお話会の会場にもなる。この本棚の裏には、「秘密の部屋」という小さな部屋があって、冒険心をくすぐる。子ども向きという事もあって、優しい感じが伝わってくる。

残念だが、予算が削られて、本館のように木をふんだんに使った建物にならなかったそうだが、大きな空間に2万冊も子どもの本を集めた魅力的なところとなっている。

2階にはパンケーキカフェがあって、日中は子ども連れでにぎわうそうだ。



子育てセンターを作るか、図書館にするかを議論したそうだが、子育てセンターにもなる図書館としたようだ。

武雄市図書館の特徴のひとつは指定管理者のCCCによるTカードの導入だろう。Tカードが武雄市図書館では図書の貸し出しに使える。選択性でこれを使いたくなければ、普通の図書カードも作れる。ただ、セルフカウンターを用いれば、1日1回3ポイントが貯まるそうで、8割がたの利用者はTカードを持っているそうである。

指定管理されている図書館とはいえ、ここは公共図書館である。地域の行事や地域のイベントにも積極的に関わり、ボランティアとの共同してのイベントや行事もある。

武雄市図書館にはさまざまな批判もあるが、私は新しい取り組みを評価したい。センスの良い図書館が地方にあってもよいのではないか。図書館は文化センターであり、市民サービスのために多少のお金が掛かっても仕方がないと思う。5万人の町で、県外からの利用者も多いだろうが、延べ100万人もの人が利用しているなんて、公共施設として立派なものである。

狭山市の図書館は地下の書庫に沢山の本が眠っている。雨期になると雨漏りがするようなところに本を置いている。検索ができ、図書館員が書庫から本を持ってくるので、開架しなくても良いというのがこれまでの見解だった。しかし、それは市レベルの図書館の趨勢から外れている。(国会図書館ではない!)新しい使い勝手がよくおしゃれな図書館が狭山市にもほしいと願っている。

公益社団法人佐賀県看護協会 ケアステーション 野の花

野の花は看護小規模多機能型居宅介護事業を先進的に行っている事業所である。訪問

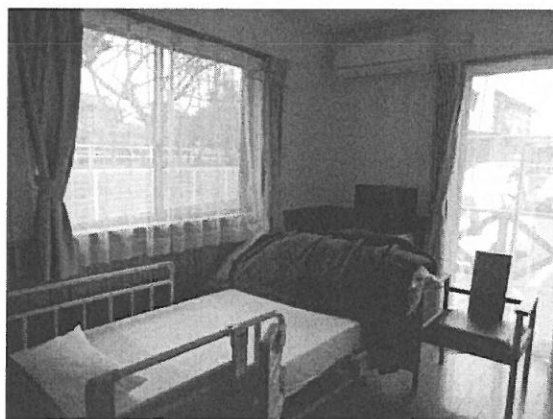


看護ステーションを平成7年に開業、その後、療養通所介護を平成18年に開始し、居宅介護支援事業となった。看護小規模多機能型居宅介護事業は平成25年から始めている。この事業の開始をするのが早かったのは、療養通所介護を行っており、ノウハウを持っていたし、訪問看護ステーションもしており、看護師も夜間を通じて利用可能であったせいもある。

定員として、登録人数は25人、通い13人、

泊まり5人としている。登録者は25人だが、実際には12,3人が通いできており、泊まりは3,4人程度である。

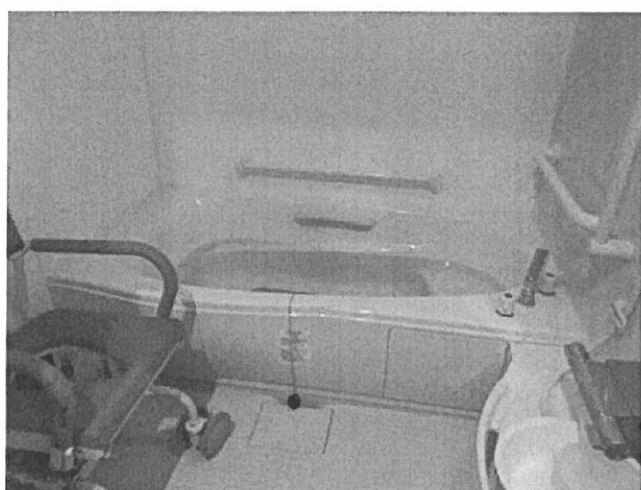
介護士は15人おり、常時日中6人が働いている。看護師は15人がステーションにおり日中は一人が施設についている。夜は介護士が宿直しているが、オンコールで2人の看護師が対応できる。ここは病院とは直接提携しているわけではないが、それぞれ利用者は医師よりの指



示書をもっているのので、それに従い医療行為などを行っている。送迎は1人ずつ行っていて、集団での送迎はしていない。日中活動は一斉行動などなく、好きな事を行っている。自分らしく生きる。少人数なので、融通が利くのである。お風呂も機械浴もあり、1人風呂もあり、選べる。

すべての利用者は要介護者であるが、平均では3.1ほどである。また、病院での緩和病棟が佐賀市では少ないので、看取りを行うケースも多々ある。

看護小規模多機能型居宅介護施設はどこも定額制であるが、実費の部分は施設によって違う。ここは泊りが2000円、朝食200円、昼食350円、夕食400円である。昼食時に伺ったが、おいしそうなランチだった。でも、要介護3ではほとんどの人が食事は全介助ではないかと思うので、大変だろうと思う。



今回私は入間市「青い鳥」について、看護小規模多機能型居宅介護事業「野の花」を視察した。狭山市にはまだ看護小規模多機能型居宅介護事業所が無いからである。佐賀市は県庁所在地で大きな市なのに、なぜ看護小規模多機能型居宅介護事業が1箇所しかないのかと聞いたところ、病院が多く病床が余っているので、必要な時に入院が可能であるとのことだった。それを聞けば狭山市も病院の数は少なくないので、今まで看護小規模多機能型居宅介護事業がなくても良かったのかもしれない。

しかし、在宅医療もすすみ、狭山市でも訪問看護ステーションも多くなり、看護小規模多機能型居宅介護事業のニーズも高まってきていると思う。出来るならば、次の高齢者福祉計画・介護計画にこの施設を入れてほしい。作ってほしいと思う。在宅で介護したくとも医療行為を伴うと、家族介護は複雑で、どうしても病院へ入院させてほしいと思うが、今時では、治療が不可能（胃ろうだけでは治療にならない）の場合には退院させられる。しかし、とても家族は対応できない。夜間の事もある。在宅の場合には、少なくとも誰かにケアを分担してもらわなければ、家族でケアはできない。訪問介護・看護が可能で、時には泊まる事ができる場所があればなんとも心強いではないか。だから、看護小規模多機能型居宅介護事業が望まれるのだ。